

令和6年度 学校経営計画に対する最終評価実績書

石川県立翠星高等学校

No. 1

[illegible]

令和6年度 学校経営計画に対する最終評価実績書

石川県立翠星高等学校

No. 2

[illegible]

令和6年度 学校経営計画に対する最終評価実績書

石川県立翠星高等学校

No. 3

重点目標		具体的取組		主担当	評価の観点	達成度判断基準	判 定	集計結果	分析（成果と課題）及び来年度に向けて（改善策等）
3	社会人として必要な生活習慣や規範意識、他者への敬愛と協力を重んずる態度を育成する。	①	教職員から積極的に挨拶を行い、始業・終業時の挨拶に統一を徹底する。登校指導でも指導する。また、農業クラブによる啓発活動を実施し、朝の挨拶への意識を高める。	生徒指導課 全教職員 各年次 農業クラブ	【成果指標】 自発的に挨拶ができる生徒が増加している。	自発的に挨拶ができたと答えた生徒の割合は A 80％以上 B 70％以上 C 60％以上 D 60％未満	B	いつも大きな声で挨拶をしている 35.7％ 少しずつ大きな声で挨拶ができるようにしている 39.3％ 自発的に大きな声で挨拶ができたと答えた生徒の合計 75.0％	後期学校評価生徒アンケートの結果によると、いつも大きな声で挨拶をしていると答えた生徒が35.7％、少しずつ大きな声で挨拶をするようになってきたと答えた生徒は39.3％、挨拶はするが声はまだ小さいと答えた生徒が23.0％、ほとんど挨拶はしないと答えた生徒は1.9％となった。 前期と比較すると、大きな声で挨拶できる生徒が増えてきた。まだ、目標の数値には達していないが、感覚的にも良くなっていることが実感できる。農業クラブや生徒会役員など率先して挨拶運動を行ってくれる生徒もあり、今後も教職員共々大きな声で挨拶ができる姿勢を指導していきたい。
		②	基本的な生活習慣の確立を目指し、遅刻や欠席者の減少に取り組む。また、農業クラブや公安委員会による啓発活動を実施し、無遅刻への意識を高める。	生徒指導課 全教職員 各年次 農業クラブ	【成果指標】 基本的な生活習慣が身につき、遅刻者が減少している。	基本的な生活習慣が身についたと答えた生徒の割合が A 90％以上 B 80％以上 C 70％以上 D 70％未満		B	しっかり身につけている 46.5％ ある程度身につけている 40.4％ 基本的な生活習慣が身につけてと答えた生徒の合計 86.9％
		③	集会・HRなど様々な機会を通して、自身の「あり方・生き方」について考え、学習するとともに、いじめ等の防止に繋げるため他者への敬愛と協力を尊重する姿勢や態度を育成する。	生徒指導課 全教職員 各年次	【成果指標】 アンケート結果により、他者を敬愛する態度が育まれている。	どのような理由があろうとも、いじめは絶対に許されないとの質問に対して「あてはまらない」と回答した生徒の割合が A 2％未満 B 2％以上4％未満 C 4％以上6％未満 D 6％以上	C		どのような理由があっても、いじめは絶対に許されないと質問に「あてはまらない」と答えた生徒 5.3％
学校関係者評価委員会の評価		・挨拶や基本的な生活習慣の確立は社会人としての礎となる。いずれも高い数字となっていることは高く評価できる。学習だけでなく社会人としての様々な素養を身につけさせてほしい。 ・農業高校には、温かさやおおらかさがあると思う。のびのびとした環境のもと、生徒も学校も輝きを放てるように、一人ひとりの生徒を大切に育ててほしい。 ・いじめの問題はどこにでもある。しつけは家庭の問題でもあるが、日々の生徒の様子に目を配り、適切に対応していただきたい。							
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		・挨拶の励行、遅刻指導など基本的な生活習慣の定着を目指して継続的な指導に取り組んでいく。 ・全教職員が生徒の様子に目を配り、早期発見と対応に努めるとともに、様々な機会を通して生徒を諭し根絶に向けた取り組みを行っていく。							

石川県立翠星高等学校

4	タイムマネジメントに基づき、能率的な部活動や課外活動を推進し、活力ある学校づくりに取り組む。	①	ガイドライン内の活動時間であっても、講習会、講演会などを積極的に取り入れ、効率的に部活動や研究会活動の活性化に取り組む。	特活課 農業クラブ 全教職員 各年次	【成果指標】 部や研究会活動などに積極的に活動する生徒が増加している。	部や研究会活動などに積極的に活動する生徒の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	A	積極的に取り組んでいる 48.2% ある程度取り組んでいる 33.0% 課外活動に積極的に取り組んでいる生徒の合計 81.2%	生徒向けアンケートの結果によると「積極的に取り組んでいる」が48.2%、「ある程度積極的に取り組んでいる」が33.0%で、あわせて81.2%となり、A判定になった。 運動部、文化部、研究会ともに全体的に活動が活発になってきており、積極的な取り組みがみられるようになってきた。その結果、昨年度よりも大会や練習試合などの出場数が増え、好成績を残せる部・研究会も出てきた。 農業クラブ活動では、全国大会にプロジェクト発表会に1チーム、意見発表会に1名、測量競技会に1チームが優秀賞を受賞するなど、大きな成果をあげることができた。 次年度以降もこれまで同様に、生徒や研究会が地域に根ざした活動を行い、積極的に活動できるよう学校をあげて取り組んでいきたい。
		②	農業クラブ活動の内容を充実し、生徒の参加を通じて、その意義を理解させ、生徒の農業及び関連分野に対する関心及び学習意欲を高める。	農業クラブ 農業科 各研究会 各コース	【満足度指標】 農業クラブ活動への参加を通じて専門分野への学習意欲が高まった生徒が増加している。	農業クラブ活動への参加を通じて専門分野に対する学習意欲が高まった生徒の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	B	おおいに高まった 28.8% ある程度高まった 39.1% 農業や専門分野に対する学習意欲が高まった生徒の合計 67.9%	生徒向けアンケートの結果によると「おおいに高まった」が28.8%、「ある程度高まった」が39.1%で、あわせて67.9%となった。特に、おおいに高まったと答えた生徒の割合が高くなったことが評価できる。 高等学校学習指導要領（農業科）に学校農業クラブ活動が指導項目として位置付けられており、学校農業クラブ活動は農業科全体で実施していくものである。今後も農業クラブ活動に対する関心の高まりを維持しつつ、農業科の教員だけでなく、普通科の教員の支援も得ながら全教職員が一丸となって、農業クラブ活動や専門分野に対する学習意欲を高め、成果が現れるように努めていきたい。
		③	統一的な取り組みや学校独自の多忙化改善を進めることで、時間外勤務時間の削減に取り組む。また次年度の効果的な取り組みのためにデータの分析・調査を進める。	全教職員	【成果指標】 働き方改革の意味合いを、職員が共有化し多忙化改善に向けた取り組みにより時間外勤務時間が減少する。	超過勤務ガイドライン上限45時間を下回る職員の割合が A 75%以上 B 60%以上75%未満 C 50%以上60%未満 D 50%未満	B	超過勤務ガイドライン上限である45時間を下回る職員の割合 66.1%	4月から12月までの9か月を集計したところ、45時間を下回った職員は、のべ269名（66.1%）であった。一方、過労死ラインの目安となる80時間を超えた職員が47名（11.5%）、そのうち100時間を超えた者が18名（4.4%）いた。昨年度よりは微増した。 長時間労働は国が掲げる働き方改革の中でも重要な課題のひとつであるが、本人や家族のためにもメリハリのある効率的な業務改革を勧め、特定の個人に負担が及ぶよう組織的な対応に取り組み、今後も超過勤務の軽減に努めていきたい。

学校関係者評価委員会の 評価	・中学校の部活動は地域のクラブに移行しつつある。高校の先生方は、まだまだ大変だが、無理のない範囲で指導を頑張してほしい。 ・研究会活動をはじめとする農業クラブ活動を今後も積極的に取り組んでほしい。様々な方面で活躍しており、若い力は頼もしい限りである。 ・超過勤務時間が昨年度と比べやや増加している。決して無理はしないでいただきたいが、生徒のために頑張してほしい。
-------------------	---

学校関係者評価委員会の 評価結果を踏まえた 今後の改善策	・ホームページも一新し、昨年度より情報発信の機会を多くした。学校の様子や部活動・研究会活動の様子をもっと発信していきたい。 ・喫緊の課題である多忙化の改善に向け、教職員の業務の見直しを積極的に推進し、組織的な対応を図ることで時間外勤務の縮減に努めていきたい。
------------------------------------	--